18禁
ND
ND
牝豚
フタナリ対魔忍
雌豚妊娠調教
生猫亭

fou adult only

2017. 12. 31

namanecotei

「それじゃあトドメよアサギ
やりなさいゴーレム！」

ドゴ

ン

うぎゃ！

ドン

ドン

「フフフもうその辺で
いいわ」

「ご苦労様…アラアラ
いい格好ねアサギ…ちょっとした
現代アートみたいになってるわよ♪」

「アハハホントいい格好
さーて帰ったら
どうしようかしら
このクソ対魔忍
…今から楽しみ～」

「さてと…それじゃあ
連れて帰るわよゴーレム
アサギを引き抜きなさい！」

ビクン

ビクン

じょろ～～

ズボッ

ぬく

ぬく

「おにょれええええ
朧～～」

「でいっても、上半身地面にめり込んで
聞こえてないかしら…アハハ
オシッコ漏らしちゃってまるで
噴水ね♪あー可笑しい♪」

2週間後

「アハハ　ずいぶんと
素敵な身体になったじゃない♫
アサギ♪」

「似合ってるわよその
フタナリ巨大チンポ♫
それにその淫紋も…
アハハハそれにしても何あんた
凄んでるくせにチンポはうフル勃起
じゃない♪」

『つく…朧』

「もしかして私を笑いじにさせる作戦なの？」

ぐん

ぐん

「う、うるさい
黙れ！誰の
せいだと！！」

「それよりはやく元に戻しなさい…
そうすれば楽に殺してあげるわよ…」

ふふ

「あらあら、自分の立場がまるでわかって
ないなんて…相変わらずおバカさんね…
それじゃあ解らせてあげる♥」

ボソ

『メス豚のポーズ…』

「それだけじゃないわよ　そのチンポも
だけど　腋からは常に淫乱フェロモン
大放出よ♥」

「ほーら　試しに自分でそのくっさい
腋毛ボーボーの脇の臭いを嗅いで
ごらんなさい」

なっ！

ボワ～

スン スン

「くっ！
黙れ！腋の
匂いなんて嗅がす
なあああ…」

ムワ～

臭い

臭

「なっなんだ！
体が勝手に…
わ、私の体にいったい
何をした！朧！」

「そんなこと言わずに嗅ぎなさい
きっとこのザーメンがパンパンにつまった
玉突き巨根チンポ一発でいっちゃうから♥」

ぐり
ぐり

「そんな脇の臭いなんかで
しかも自分の匂いなんかで
イクわけが…」

くん
くん

うほおおホント
にいぐううう♥
自分の腋臭で
いぐううう♥

おほっ♪

バ

「アハハハ　いい格好ね
アサギ、何？その無様な格好？
そんなポーズで私を殺そう
っていうのかしら？
あー怖いWW」

「まあいいわ教えてあげる
その淫紋によってアンタの体は
私の操り人形になっちゃったわけw
自分の意志とは関係なくどんな
命令でも自由自在ってわけよ♪」

「うぎいいい金玉あああ☆」

「!ほら！オマケよ」

ぎぃぃぃ

「チンポ！チンポいぐ…」

ぶくぶ

ぶくぶ

いぐっ

ドン!!

「おおおおほおおぉ
なんでえええ
金玉蹴られて死ぬほど痛いのに
痛いのがぎぼぢい～～♥
まさか…お、おぼろ～～★」

「アハハ気づいた？アンタの
その体は痛いのが気持ちよくて
たまらないドスケベマゾボディ
になったってわけ♪どう？嬉しい」？」

「アハハそんなこといいながら
金玉蹴られてるのにさっきから
イキっぱなしじゃない♪
このマゾ豚が！それそれ！」

ぶゅ

ぶゅ

ぶゅ

「くそ…誰がこんな
臭い…臓のチンポなぞ…」

「ほら　散々イカせてやったんだ
今度は私のチンポをしゃぶって
気持ちよくしなさい…アサギ」

ぱくっ

「あはっ♪必死に
抵抗してるみたいだけど
もうすっかりマンコみたいに
口はチンポを求めてるわよ♪」

「なんだこの臭はダメだ
頭おかしくなる…
も、もう我慢が…」

じゅるうう

「そうよアンタを犯すために
わざわざ付けたんだから
しっかりしゃぶりなさい♪」

「なっ！貴様にも
チンポが…」

「悔しそうな顔してもダメよ
アンタは私のいいなりなんだから
ほーらもっと口をすぼめて
チンポ吸いなさい！」

「アハハ何？３０秒も我慢
できなかったわね♪」

「ぶほおおおおん！」

「それに悔しそうな顔してる
わりにすっごい吸い付き…まるでタコね♪
アサギ♥どう？アタシのチンポ
美味しくてたまなないでしょ？」

ブガッ

「お口の感度もマンコ並に改造済だから
口だけでイケるはずよアンタ♪
わかる？口マンコよ♥ク・チ・マ・ン・コ♪」

「アハハぶほおおおん」だって
馬面で吸い付　るから馬かと
思ってたけ　豚だ　ね？」

それじゃあ豚らしい顔にしてあげるわ
きゃははホントに豚みたいw
ほーらブヒブヒないてごらん
まあ逆らっても無駄だけどね♪」

「く、口が勝手にぶほおお、ブヒブヒ
ぶほおおおん★おにょれええ
ブヒブヒいいいん♪」

じゅるうう

ブブッ

「あはは
ホント豚そのものね
あら？アサギ鼻毛丸見えよ
はっずかし～♪」

「ぶひいい、やめろおおお
みりゅなああ」

ぐいっ

「ほら
それじゃあ豚
にふさわしい餌を
あげるわ
さあ私の肛門をお舐め！
雌豚！」

「く、くひまんこらと…
おにょれえええ
ろごまれもひとのかりゃだを…
おびょろ…
おおおのほおおん★
おぼろのひんぽおおおお♥♥」

「キャハハ舐めてる　舐めてる
あのアサギが私の尻穴舐めて
チンポギンギンに勃起て
マンコからは
ウレションまでしてるわW」
「おお…ダメ…
お、朧の肛門を舐める
なんてそんなの
ダメだ…ダメなの
にいいい～」
「おおお入ったああ
朧の肛門に私の舌がああ～
おお何これ臭い…苦い…
なのに興奮する…チンポ
チンポ勃起する～★」
「どう？改造されたその舌は？
クリトリスみたいに感じるでしょ？
しかも味覚はザーメンや糞が一番
美味しく感じるように調整されてるのよ♪」
「ひょんなああ…
くそおおお、おぼろおおお♥
おお糞穴美味しすぎるううう★
朧の糞穴～糞穴ああああ♥♥」
「おおダメ…
糞穴美味しい…
おほおお！
私、朧のウンコ
舐めてチンポ
興奮させてるうう…
カウパーダダ漏れえええ♥♥」
「おおおいぐううう
朧のウンコ舐めて
いぐううう
ウンコ舐めていっちゃうううう♥♥
舌チンポでいぐうううう♥」
「キャハハイったwイったわw
あのアサギが私の糞舐めてイってるわw
あーいい気味ｗｗ
よかったらこれから毎日
糞をご馳走してあげるわよ♥」
じゅぼ
じゅぼ
レロ
レロ
レロ
レロ
レロ
レロ
じゅるるる
ビクン
ビクン
じゅ
どくどく

「アハハ
何アサギ挿入しただけで
イっちゃったの？
ザーメンすっごい勢いで
でてるわよ♥」

「まあアンタがいこうが
どうでもいいわ
構わずガンガンケツを
掘ってあ・げ・る♪」

「それじゃあケツ穴掃除の
ご褒美をあげるわ
四つん這いになってケツ
つきだしなさい！」

『それっ！』

おっほ～♪

「あへえええ
やめろおおお
おほおおおおケツううう
ケツしゅごいい
おほほおおお♥」

「ケツにチンポおおお
朧のチンポきたあああ
のおおおおお♥♥」

「おほおおお腰が勝手に動いちゃう…
おおおお長チンポの先が床にこしゅれるう
裏スジズリズリこしゅれるう♥♥
チンポダメ♥チンポだめ♥
チンズリ♥ケツハメ♥欠ハメ♥チンズリ♥
どっちも気持ちいいいい♥♥」

「いぐいぐいうううう悔しいのに
チンポ勝手にいっちゃうううう
前立腺こしゅられて
チンポミルク心太みたいに
おしだしゃれるうううう★」

「アハハハ何アンタ？最初の威勢は
どうしたのもっとがんばりなさいよ
それそれそれ～！」

「おほおお…もう糞穴つくなあああ
のほおおおおおチンイキ止まんない
床ズリぎもぢよくて腰止まんない♥
ザーメンどっぴゅんとまりゃな～い
チンイキぎもぢいいいいい♥♥」

1時間後

「ふう…ちょっと
やりすぎて疲れちゃったわね
今日はこれくらいにしとこうかしら
何？あなたケツ穴ガバガバに
なったんじゃないの？
糞が垂れ流しになてるわよ♥」

それじゃあ最後にその汚れた体を
私のザーメンで綺麗にしてあげるわ♥
ほら笑顔でダブルピースの格好で
オシッコ受け止めなさい」

じょ～～～

あへ～～

あへ～

「あへえええ
ぴーしゅ♥ぴーしゅ♥」

「アハハ糞しながらピース
してるなんて最高に無様ね♪
それじゃあ出すわよ♥」

「がぼごぼおおおお
朧のしっこおおおおお★
おおおおシッコ美味しいい
まだいぐううう!!!!
糞しながら小便のんで
まだいぐううう♥」

「おおお母乳もウンチもザーメンも
小便も全部でちゃううう
♥あへえええええ♥」

ぶぴぴ

ぶしゃ

「あー面白かったw
それじゃあ私はもういくわね
いろいろ忙しいの」

「そうそう言い忘れてたけどアンタ
を捕らえたあとに潜入してきた、さくらと
紫…それにアスカだったかしら
そいつらも捕らえてオークたちに
調教させてるところよ♥
今度合わせてあげるわ」

ぶしゃるうう

「あっ行く前に命令してあげな
くっちゃ…
次私がくるまでずっとそこで
オナニーでもしてなさい
猿みたいにね♪
食料はそうね自分の出したもの
で適当に食い繋ぎなさい
じゃあね～アハハハハ♪」

ひり

ひり

1週間前

ベシッ!!

「オラオラもっといい声で鳴きやがれこのメス豚対魔忍が！」

「くそおお、キサマら覚えていろ必ず殺してやる～楽に死ねると思うな～おおおおケツ穴ほじる～～」

うぎぃぃ

「ぎゃぴいいい叩かないで…おおチンポそんなに吸い付いちゃだめ～～」

あんっ

ぎゃははは
ケツ穴掘られてザーメン射精しながら
凄まれるなんて怖すぎだぜえ～」

パン!

「あへええ
お尻ホジホジしちゃらめ～～♥
ケツ穴いっちゃうよ～♥」

じゅぼ

「それじゃあ殺される前に
しっかり殺してやらなきゃな！
ソラソラ！」

じゅぼ

じゅぼ

パン

「ぐおおおおやめろおお
いぐうう痛いのにいぐ～～
尻叩きぎもぢいいい★」

びゅるうう

「ぎゃははは
また叩かれてイッたぜ
この対魔忍どもまじで
ドマゾに改造されてんだ
なこいつらw
いい気味だぜ糞対魔忍！」

パン!!

「おおおやめろおおお
もうケツを叩くな～やめろ！やめてくれ～
イってしまうケツ叩きでまた
イってししまう～マゾアクメ
くる～～もうイギたくない～★」

パン!!

「ぎゃぴいいい
ムッちゃん私もいっちゃう
痛いのきもちよくて私も
マゾアクメきちゃ～
いぎゅうううう～～♥」

あんっ

あんっ

うぎぃぃ

「1週間後にはマダムや皆にお披露目だ
それまでしっかり躾てやるから
覚悟しやがれ金玉ドマゾ対魔忍が！」

そして披露目の日

「さあお前たちのメス豚奴隷としてのデビューだ張り切っていけよ！」

「あらあらこれまた随分と可愛らしくしあがったものね♪」

「ブヒブヒ…うう…こんな屈辱…」

「ふごふごおお」

糞…フゴオオフゴッフゴオオオ！

「おら-!-どう-した声が小さいぞメス豚！会場に響くくらいに大きく泣け！」

「は、ハイごめんなさい」

「誰が普通の人語を許可した語尾にはかならずブヒだ！」

「も、もうしわけありませんブヒ…」

ぶぶぶひひひいいい

「うう…ピ…ピース★同じく、ノマドの
新人チンポ退魔豚の紫だブヒ♥」

「あへええ♥ピース★対魔忍あらため、
ノマドの新人オチンポ退魔豚の
さくらブヒ★」

「みての通り恥ずかしい
包茎チンポだブヒ♥
一番感じるのはケツ穴
のど変態のマゾ豚だブヒ♥」

「全身オマンコみたたいに感度改造済…
ズルムケチンポでご奉仕するブヒ♥」

「まずは挨拶代わりにアヘ顔
チンポ踊りをご披露するブヒ♥」

「包茎おチンポぶるん
ぶるん★」

「ズルムケおチンポ
ぶるんぶるん♪」

「チンポ♪チンポ♪
ブヒン♥ブヒン♥」

「チンポ♪チンポ♪
おっちんぽ～♥
チンポブルブル
ご奉仕がんばるブー♪」

「ぎゃはは　なんだアレ
馬鹿みて～～w」

「くそ…チンポのためにこの
ような屈辱…耐えろ…
耐えるんだ～」

「よーし、よくできたなメス豚共
ご褒美のオークチンポだ」

「あーん…チンポ～
チンポはやくほしいブヒ～♥」

「ううう…くそおお…
ありがとうございます
チンポに感謝するブヒ～」

「ガハハそれじゃあその豚面にたっぷり
くれてやるから感謝しろメス豚！」

「そんなに頼まれたら
しょうがねーな…
それじゃあ射精するから
たっぷりその口便器で
味わいなW」

「さーてそれじゃあ
チンポ豚ちゃんに
餌をくれてやるかな」

「ほれ口を両手で拡げて
舌をだして準備しろ
豚便器ちゃん」

「ぶ、ぶひ♥
こ、こうれひゅか？」

「ブヒブヒ、ハイ
メス豚はおちんぽ
しゃまかられる
ザーメンのこさず
ロマンコ便器で
のみほしまひゅうううう♥」

「よーしいいぞ
それじゃあ
メス豚らしく
オネダリしてみせろ」

「ぶひっ♥ぶひ♥
えへへええめしゅぶた
じゃくりゃのおくち便器
にみなしゃまの
ザーメンめぐんでくらひゃい♫
ぶひ♥ぶひん♥」

「うへえええええ
ぶひいいいいん♥
ザーメンひたああ
ブヒブヒ美味しいれしゅ
ザーメンおいしいい♥」

「豚にザーメンめぐんで
いたりゃきありがとう
ごりゃいまひゅうううう♥」

「あへえええもっとくりゃ
ひゃいザーメン
もっとおお♥♥」

「ぎゃはは
ゴクゴクのんでるぜ
このメス豚。
まったくドスケベ豚
だな」

「ふごっ！ふごおおん♥
はにゃからりゃーめん
きたあああ
くしゃいいい♥
くじゃくてメス豚
さくらいっちゃうぶひいい
ぶひいいいん♥」

「それじゃあ今度はその
豚鼻にもくれてやるから
鼻からザーメン飲め
豚さくら！」

(だめだ我慢できない…
おおスンスン
匂いだけで気をやって
しまいそうだ…
それにこっちの
チンポの味も
美味い美味すぎる…
オークのチンポとは
こんなにも
美味しいもの
だったのか…)

(これはこの
チンポの
チンカスの
匂いか…)

「ぐっやめろ！
乱暴に扱うなブヒ
もっと丁寧に
メス豚を扱え
ブヒ！」

「おら！お前も
さっさとしゃぶれ
メス豚！」

「ぎゃはは
こいつ嫌そうな
フリしてたくせに
鼻の穴にまで
チンポ擦り付けて
喜んでやがる
豚そのもの
じゃねーかw」

(なんという臭さだ…こんな
チンポ臭は初めてだ…
臭すぎて…すううう
はああなんて芳しい…
これは豚鼻に直接
塗りこんだら
どうなるんだ…)

「ぶひっ？
なんだこの匂いは…」

(だまりぇこんなチンポの
匂いにメス豚が逆らえる
わけないだろ…悪いのは
お前たちのチンポだ！
この臭くて美味すぎるチンポだ！)

「ハイハイ分かりましたW
それじゃあ
その便器顔にたっぷり
ザーメンくれてやるよW」

「そらよそんなに鼻がいいなら
両穴にチンポ汁ねじ込んで
やるよ　それそれ！」

「ぶほほおおお♥」

(両穴だと♥それはダメだ
すぐ、すぐイッてしまう
おお鼻でいく私の鼻はマンコに
なってしまったのか鼻マンコおお♥)

「ぶひいい♥ぶひょおおお♥
チンポ汁いっぱい　ぐさ～い
くさくていぐううう♥
メス豚この臭い匂いと
味だけでいぐらでもいっちゃう
ぶひいいいい♥
もっとおおおおもっと
チン汁だすぶひいいん♥」

「おおすげー吸い付きだ
豚鼻がよっぽどいいらしいな」

「うるひゃいらまれええ
らまってこのメス豚の顔マンコに
チンポこじゅれええじゅるうう
おおチンポおおお♥
チンポ美味しいぶひいい♥」

「みろよこの顔　まさに
顔面マンコだなW」

「こ、こうか
ブヒか？」

「ハイぶひっ♥」

「よーしそれじゃあ
ケツ穴セックスの
準備だ…ケツを拡げて
こっちにき出せメス豚共」

それじゃあお前たちの
大好きなザーメンを
ケツ穴から注入してやる」

ぐい

ぴゅる…

「く…糞をしていいブヒ？
あ、ありがたい…早く…
早く雌豚の糞穴にザーメン
浣腸を注いでくれ
たのむブヒ♥
浣腸がほしくてたまらない
んだ…ブヒ…」

「腹の中に溜まった二週間
分のクソをブヒブヒ泣きながら
全部ひりださせてやるぞどうだ
嬉しいか？」

「あーんやっとウンチの
許可がもらえるんですか？
嬉しいブヒ～～♥」

牝豚

牝

「よーしそれじゃあ
注いでやるぞ
ありがたくケツで飲み干せ！」

ずぷ

「おほおおザーメン
ケツ穴にきく～
ブヒブヒ～♥」

うほっ♥

あん～

ずぷっ～

ぶほっ

「ぶひいケツ穴ザーメン
美味しいブヒ～」♥

うほっ

「感謝！感謝するブヒ♥
もっともっといっぱい
ウンコできるように
注いでブヒ～♥♥」

ぶゅ～

「どうだ？
ケツから飲む
ザーメンは美味いいか？
美味かったらお礼を言え
雌豚！」

「おおおでりゅでりゅでりゅうう
ウンコおおおお♥」
「ぶひいい～肛門ひろがりゅ
一週間ぶりのウンコでりゅうう★」
ぶひいいいい！
「よーしいいぞ
ヒリだせ雌豚」
「おおおみりょおおおお
コレが一週間分の雌豚対魔忍
の本気のウンコだあああ★」
「ぶひょおおお
ウンコブリブリ
とまりゃな～い
おほおおウンコで
チンポ感じちゃうううう♥」
「ぶひいい
見てみて～
雌豚の一週間ためたに
ためた極太ウンコ
おおおお♪」
「おほっ★おほっ★
ぶほほおおおん♥
極太ウンコで前立腺こしゅれ
ちゃう～ウンコでチンポ
いっちゃいまーす♪
あへえええシッコも
もれちゃう～♥」
「ウンコ♥ウンコ♥ウンコおおおお♥
ウンコでチンポいぎまぎゅるうううん♥
ぶっひいいいいい★」
「ぎゃはははは
なんだアレWすげーぶっとい糞だなW
糞豚対魔忍には相応しいぜW」
ブリ
ブリ
ブリ

「ぶひいいん♥
ウンコしたばかりの
雌豚の汚い臭いケツ穴にチンポ
ぶっさして頂きありがとう
ございますブヒ～★」

「ぶひいいオーク様の生チンポきた～♪」

「それじゃあ空っぽになった、
糞穴にチンポとザーメンをくれて
やるぜよろこべ雌豚！」

ぶっ

ぶっ♥

ずん

じゅぽ

じゅぽ

「おほおお～
ぶほおおお
空っぽの糞穴にチン
きくううう♥♥」

「ブヒ～ブヒ～
チンポもっと　チンポ～♥」

どぶゅ～

「それ！まずは一発目の
ザーメンだケツで
ごくごく飲みやがれ！」

「ついでに顔にもぶっかけてやるよ
上の口でも！ありがたく受け取れ雌豚！」

ぶゅるるるる

「ぶひいい
空っぽの腸に
あっちゅいザーメン
きたあああ～
おほお上からも
ぶっかけ～
おほおおお
ぶほおおん♥」

ヒクン

ビクン

ブヒ～

ブヒ～

「ぶひいい
ザーメンのみます
ケツ穴で飲みます
ぶほおおん♥
ケツ穴にもお口にも
ザーメンいっぱい
のましぇて～」

「こっちも射精する
豚のチンポから
ザーメン大放出
ぶひいいい♥
あへえええオッパイからも
ザーメンみたいな
ミルクがふきだしゅ～
あへえええザーメン臭で
豚鼻マンコもイキそうブヒ～♥」

「ぶほおお
射精る射精るでちゃうう～
さくらのチンポもケツ穴
掘られてザーメン大爆発～♥」

ぶゅるるるる

「ギャハハそういやコイツら
鼻マンコだけでイケるんだったなW
そうだこいつらの鼻マンコ同士で
セックスさせてみようぜ！」

「面白れ～そりゃいいなW」

「ぶほホ♥ぶほおん♥
鼻マンコしゅおいい♥」

「ふが～★
ふごおおお★
気持ちいいぶひいい♥」

「オラオラ
豚同士の鼻マンコ
セックス気持ちいいか？」

ブガッ♥
ブゴッ♥

じゅぽ
じゅぽ♥♥

ズプ
ズプ

フゴ～♥
フゴ～♥

「フゴ♥フゴ♥
ひゃくら…
ひゃくらああ♥」

「ブヒー♪ブヒー♪
むっちゃん♥
むっちゃん♥」

フゴ～♥
フゴ～♥

じゅぷ
じゅぷ

ズポ
ズポ

「ぎゃはは
豚同士でで気分だして
やがるW」

「豚同士で鼻マンコセックス
して愛が深まったんだろW」

ぶぴ～♥
ブギ～ン♥

「おら豚同士で勝ってに
盛り上がってるんじゃ
ねーよ♥もっとブヒブヒ
ケツ穴絞めて
腰フリな！」

「す、すまない…
すっかり鼻セックスに夢中になて…
雌豚はしっかり糞穴を締めるぞ…
おおおお～尻ペンペンされると
益々豚は感じてしまう…
チンポがまたイッてしまうブヒ～♪」

パーン!!
ビクン
パーン!!
ビクン

「おおケツにオーク様の
熱いチンポ汁がドクドク
きてりゅう～
おほおお私のチンポも
ミルクどっぴゅんするぞ…
ぶほおおチンポ汁どっぴゅ～ん♥」

「ぶひいいい皆様を無視して
盛り上がってすいませんブヒ…
ケツ穴しっかり締めてご奉仕
しますブヒ～」

パーン!!

びゅるるるるるるる

「よーし、どうだ雌豚共？
自分たちの立場がこれで
理解できたか？」

「よーし、
そそれじゃあ射精と同時に
これからはノマドの忠実な
雌豚として生きると誓って
みせろ！！」

「誓う時はあっちで撮影してる
カメラに向かって笑顔でダブル
ピースを忘れるなよ！」

「プギ～
身にしみて理解
できましたプギ～」

「プギー♥プギー♥
わかりましたぶぎいい♥」

「ブヒブヒわかりましたブヒ♥
雌豚はザーメンとともにノマドに
忠誠を宣言させて頂きますプギー★」

「おほおおぶほおお
それでは誓わせて頂きます～★」

「ぷぎょおおお
イクイクいぐううう
ザーメンどっぴゅん
それでは宣言します～♥」

「同じく紫も対魔忍を完全引退
してこれからはノマドの
忠実なるチンポ豚として
一生を捧げることを誓うぞ♪
このザーメンと極太チンポに
かけてかならずだ！
ぶっぴ～ん♥♥」

「ブヒー♥さくら対魔忍を完全に
引退しこれからはノマドの共同
フタナリ雌豚便器として生きることを
このザーメンに誓わせて頂きます♥
ブヒブヒブヒ～♥」

(朧)「アハハお前たちよくやったわ…しかし部下にしようと
思ったけどこんなんじゃ役にたちそうもないわね…
そうだこいつらはこのまま便器にしてクローンを作ってそいつらに
アサギの調教をまかせてみようかしら♪うんそれがいいわね♪
アサギの反応が今から楽しみ♪」

数日後

あひいいい！だめええ～

「おほおおお
腋をそんなに
ペロペロ
舐めちゃダメ…
おおお腋がマンコみたいに
感じる～～！」

「さ、さくら、紫
もうやめて…
二人とも
私がわからないの!!？」

「オ、オリジナルってまさか…」

「あーん？お前なんか
知らねーよw
オリジナルの関係者か？」

「そ、そんな元の二人はどうなったの？
おひいいい～！」

「そうだよアタシ達は
オリジナルのクローンさ
でも記憶までは引き継いで
ないよ…だからババア
のことなんかしらねーよ！」

「ああ…？知らんな、どっかでオークの
便所にでもなってんじゃないか？
しかしアサギだったか？おまえ腋を
洗ったことあるのか？鼻がまがりそうな臭だぞ…」

「ホント、クッサイしょうがない
からアタシらの舌でババアの
脇マンコ掃除してやんよ
感謝しろよババア！」

「うるさい！口答えするなこのババアが！」

「ひいいゴメンなさい
ババアです…ババアのくせに
口答えしてすみません…」

「そんなババアだなんて
まだ私はそんな年じゃ…
それに腋の臭なんて
嗅がないで！」

「あーなんだ調教はまだ始まった
ばかりなのにもう根を上げるのか？
雌豚ババアが…貴様チンポに根性が
足りてないんじゃないのか？

「だからチンポグリグリ
するのやめて～また
イっちゃう…
もうイクのつらいの～
イキすぎて
チンポ痛いの～」

「アハっそれじゃあムッちゃん
この雌豚ババアのケツ穴に
ムっちゃんのチンポで
根性ザーメン注入してあげればw

「そうだな♪それがいい♪
喜べ雌豚貴様の汚いケツにチンポを
くれてやるぞ！」

「どうだ雌豚！私のチンポの味は？」
ケツが気持ちよくてたまらんだろう？」

「おほおおやめて～♪
ケツ穴は感じすぎるの…
ケツ穴チンポでホジホジしちゃダメ～♪」

パ～ン!!

パ～ン!!

おほ♥
おほ♥

ああん？何がダメだ嘘を言うな
声が弾んでるぞ！
それにこの締つけはなんだ！
貴様のケツは私のチンポを
を求めてどんどんキツく
からみついてくるようだぞ♪
それ♪それ♪それ～♪」

「おほおおそれは～
ケツ穴改造されたから…
ケツマンコに改造されたから～
おおおお♪おほおおお★」

パ～ン!!

パンパン

ヘコ

「突かれるたびにチンポ
内側からも外からもこしゅられてる～」

「うん？ああ
朧様に聞いてはいたが
この体制だとその長チンポが
突くたびに床に擦れている
わけか…くくく…つくづく
滑稽な雌豚だな…
なんだアサギ？床にザーメン
ぶちまけて？床を妊娠でも
させるつもりか？」

おっほ～♥

「おほおおチンポ床ズリ
ぎぼぢいい～床チンポ
ズリズリいいの～
ケツマンコもぎぼぢいいの～」

「もう…しょうがないな～
それじゃあしばらくこっち
で我慢するかな…
オラ！ババアしゃぶれ！」

「くくく…ようやく
素直になってきたな…
まだまだいくぞ！
ソレソレ！」

ぺと

ズリ

ズリ

ぺっぷ

ぺっぷ

じゅるるる

「おお？このババアフェラ
うまいじゃん♪
さすが年季が違うってかW」

じゅるる

「まあ待て…
こいつのケツ穴はどうも私のチンポ
に具合がよすぎてな…相性抜群って
やつだ…
もう少しだけ…」

「ねえ、ムッちゃん
そろそろ代わってよ
アタシもそのババアの
ケツ穴マンコに早く
チンポハメハメしたい…」

「何呼び捨てにしてんだ
さくら様と紫様だろが！」

「それじゃあ私は今度
はマンコを楽しむとする
かな…ふむこうすると
巨根チンポも舐められて
なかなかいいポジション
だな…」

あんっ

あんっ

「ふう、やっとケツ穴
空いた…
それじゃあさっそく
チンポぶっ刺し～♪」

じゅぽ

じゅぽ

ちゅ～

「おおチンポ二本同時
コバコすんごい♥
チンポすんごい
さくらと紫のチンポ
すんごい～♪」

「あへえええごめんなさい…
さくら様と紫様～」

「おほおおお
日本同時にぶっとい
チンポきた～♥♥」

ぱっぱっ

ぱっぱっ

ぶっ

ぶっ

「それでいいんだ次呼び捨てに
したら殺すぞ！それ！
ザーメン射精すぞ！」

じゅぽ

じゅぽ

「アハハ大喜びじゃん
このオバさんもう
よっぽどアタシらの
チンポがいいらしいね♪」

「おほおお★熱いさくら様と
紫様のザーメンあちゅい～♥」

ビクン

ビクン

「いぐいぐいぐうう♪
ザーメンマンコにどっぴん
されてアサギのチンポも
どっぴゅんザーメンでる～
変態マゾ汁ビューって
でちゃう～♥」

いぐううう
いぐううう
チンポいぐうう♥
チンポ気持ちいい
チンポ最高～♥

ぶっ

ぶっ

ぎゃははすげー射精してる
よこのババア
もうアタシらのチンポ無しじゃ
生きていけないんじゃね？

「うーん？そうなのか？
アサギ？」

「しょ、しょんなこと…
おおおチンポしゅごいい～
チンポまたイク～」

ぶっ

ぶっ

OKむっちゃん！朧様のために
このババア二人でがんばって
調教しよう～♪」

「イキまくってるくせに
まだ抵抗する意志があるのか…
まあいいだったら私達のチンポ
がなければ生きていけなくなるよう
躾けるまでだ…なあ、さくら」

九ヶ月後

「貴方たち気合が足りないわよ
もっと激しくチンポをシゴキなさい！」

「ほらほら今度は声がでてない！
扱く時の掛け声は「チンポ」でしょ！」

「はい！先生！
チンポ！チンポ！チンポ♥」

チンポ♥

チンポ♥

「全くじょうがないわね…そんなんじゃ
私のような立派なボテ腹フタナリ対魔忍に
なれないわよ！」

「ほらこう！
もう…こうよ！チンポ扱くときの
手つきはこう！」

「もっと激しく大きな声で
私のようにもっと激しく
シコシコ！猿のように！
射精するときはちゃんと
掛け声！
「チンポコどっぴゅん♥」
忘れちゃダメよ！」

チンポ♥

チンポ♥

チンポ♥

チンポコどっぴゅん♥

チンポコどっぴゅん♥

チンポコどっぴゅん♥

チンポコどっぴゅん♥

「オシッコはしたくなったら
遠慮なくこうやって垂れ流しなさい！
わかったわね！排泄の最中でも
チンポシコシコの手は止めちゃ
ダメですからね！」

「ハイ！先生！あへええオシッコもれりゅうううう
おしっこじょ～★おしっこじょ～★」

「ほら！もっと早く射精する！最低１００回は射精しないと
今日の朝練は終わりませんからね！もたもたしてると
日がくれるわよ！」

「あへええええ♥チンポ♥チンポ♥チンポ♥　チンポシコシコ♥～チンポコ
どっぴゅ～～ん♥♥アヘアヘチンポコどぴゅううううん♥♥」

「いいわよ貴方たち
さあ、今日はこれでラスト
盛大に撒き散らしなさい！」

「いいアホ面よみんな
今日の朝練はこれまで！」

「よし雌豚小便垂れ流しながら
朧様に今日の仕事の報告だ」

キャハハ

「今日は朧様が視察にきてるんだし
アタシ達に恥をかかせないよう
きちんと挨拶してから報告するんだよ
豚ババア！」

「ハイさくら様、紫様…それではさっそく
オシッコしながら…
おひさしぶりです朧様…
変態オチンポ対魔忍のアサギです♥

今日は洗脳した対魔忍の生徒達
のチンポシゴキ指導を1時間ほど
行いました今は生徒たちに自主
オナニーを言い渡して休憩中です。」

「アラアラご苦労様ね
毎朝やってるの？」

「ハイチンポシゴキは
雌豚対魔忍の基本なので
毎日かかさず指導してます
あ、でももうすぐ生まれるので
しばらく産休する予定です…」

「そういえばそのお腹…
おめでとう妊娠したのね？」

「ハイ、ありがとうございます
さくら様と紫様のおかげで
無事に孕むことができました。
父親は誰かわかってないんですが…」

「どうですか？朧様
すっかり従順になった
でしょこの雌豚ババアw」

「アハハハそれは
大変ねシングルマザーね♪」

「アハハハよくやったわね
さくら、紫
あー可笑しい…ホント最高♪」

「ええ最初は
思い出したように抵抗して
たこともあったんですけどね…
毎日交尾して妊娠させたら
諦めたようです♪
アタシかムっちゃんか
こいつ自身のザーメンで
孕んだのかわかんないですけど
…豚やオークともやらせましたし
そっちが父親かもしれませんね♪」

「しかしあのアサギをよくここまで
従順に躾けたわね淫紋の力も使って
ないようだし…」

「まあそれは生まれたら分かるでしょ
豚が生まれたら最高なんだけどね♪」

「そういや豚で思い出しましたけど
この前捕まえたアスカっていう
手足のなかった糞対魔忍は
どうしたんですか朧様？」

すっ

ビクン

ばこ

「たしかチンポ付けたあと
しばらくオーク専用のバイブ兼
オナホールとして貸出して
ましたよね？」

あへっ

あへっ

くそおおおはなしぇえええ
おお人の体なんだと
思ってるのよ～！

やめろ
おおおほえええ★
私のオーク
おお前のオマンコは
オナホらなんかじゃ
ないのよ～

ぶるぅう

「ああ…そんなのもいたわね
アレなら…」

ぶるん

ぶるぶる

ぶぷぷぷ

うう
ひひ
ひい
いい
い！
けい
れ★
てあ
ンあ

無理やり付けられてるチンポミルクでちゅ

おチンポにしかされてるのよ～

チンポにしかされてるのよ～★

「アレはオナホにするのも飽きたし
オークの相手で豚にも
慣れたようだから
豚の義足をつけて本物の
豚達の仲間にしてあげたわ」

ぶぎいいい
豚チンポ
きもちいい～

「最初は嫌がってたけど
すぐに仲良くなって
子豚にオッパイミルクや
チンポミルクをあげるように
なったわねどうやら途中から
自分のことを本物の豚の
奥さんだと思い込むことで
逃避したようね♪」

あーんダメ
いま交尾してる
最中だから
ミルクは後よ…

「うへ～それは凄い
ですね♥さすが朧様
やることがエグイっす」

ブヒ～ちょと
ダメよ豚鼻マンコ
なめちゃダメ～

「ぶほほおお
ぶほおおん♥
豚鼻マンコ
いぐううう♥
ぶひいいいん！

「あら？まだそんなもんじゃ
終わらないわよ？まだ続きがあるわ」

ワハハハ
「遺伝子改造してたからその後
豚の赤ちゃんを妊娠してね…まあ
面白いからそのままノマドの
見世物小屋でデビューさせてあげたわ♪」
プヂュー
プヂュー
「大勢の見ている前で
ウンコやオシッコしてる時でさえずっと
ブヒブヒ鳴きながら交尾し続けてたわね♪
実に滑稽なみせもの大ウケだったわね」
豚1号
ぶりぶりぶり
「最高なのはアスカの糞は豚の大好物
(だったんだけどね自分の糞を豚があまりに
ガッついて食べてたから、
…まあよほど美味しそうに見えたんで
しょうね…」
もぐ
もぐ
「最後はケツにチンポ突っ込んだまま
豚といっしょになって
自分の糞おいしそうに食べてたのW
あれには客も大爆笑してたわよ♪
私なんて笑いじぬところ
だったわ♪」
ぶほ〜♥
ぶほ〜♥
もぐ
もぐ
もぐ
ずぼっ
ずぼっ
「う〜〜そいつは見てみたいかも
今度見に行ってもいいですか?」
「ええいいわよ
ぜひ見てらっしゃい
きっと面白いから♪」

「そうだな腹を
減らしてもう
まちきれないようだぞ」

「さてと
それじゃあこっちの
雌豚ちゃんにも
餌あげようかな…」

「ハイ♪雌豚アサギは
皆様のチンポがほしくて
もうたまりません♥」

「うほおおお♪
皆様の巨根チンポが３本
同時に…雌豚大感激です♥
嬉ションしちゃいそうです♥」

「まったくしょうがないわね
ほらお待ちかねのチンポだよ！たっぷり
たっぷり味わいな！」

「それじゃあ失礼して
おほおおチンポ
美味じい～♥
舌チンポだけで
いっちゃいます～～♪」

「ふふふ…上手いじゃない
アサギさすがに躾られてるわね…
それじゃあさっそく飲ませて
あげるわ私のザーメン♪」

「３本同時に咥えて飲み込みなさい
…できるんでしょ？」

「はいメス豚には３本同時にチンポ咥える
なんて朝飯前です…それじゃあいきますね」

あへ～♥

「アハハハ何アサギその顔
今あんたすごいことになってるわよ♪
あーおかしい…そうだそのまま
ピースしてみなさい♪
ピースして３本くわえたその
カバみたいな口にザーメン射精して
あげるわ♪」

「もごおおおどうでしゅか～
おおおおひんほこおひいいい♥♥」

はひいいこうれりゅか～？
ひーひゅ～♪」

「キャハハ最高～それじゃあ
射精するわよ…三人ともいいわね…
イクわよ…それっ！」

「おひいいい★
じゃーめんひたあああ
おいちいいい♥♥」

「金玉キク～♥」

「うぎいいい
両サイドから金玉
ちゅぶしゃれる～キク～♥♥」

「それじゃあ笑わせてもらった
ご褒美をあげるよ
それっ！オバさんの大好きな
金玉の伝マ責めだよ」

「あひいい有難うございます♥
二つの金玉両サイドから
電マでぐりぐりされるの雌豚は
大好きでしゅ～おほおおお
金玉だけで手放し射精するの
すんごく気持ちよくて
だいじゅき～～♥」

「ほらほら金玉の
刺激だけで朧様の前で
射精してみせろ雌豚が！」

「あらあら
アサギったら金玉の
刺激だけでイッてるの？
以前は金玉の強い
痛みでイクようには
じてたけど…」

「おほおおチンポミルク
手放し射精～
おほほおおお♥」

「あ～それはですね朧様
この豚今金玉感度を
以前の改造からさらにの５００倍
にしてるんですよ…それに伴って
精子の生産量もすんごいことに
なっちゃって常にザーメン
で金玉パンパンだから簡単な刺激
だけですぐにドバドバ射精
するんです♪」

「おい雌豚
イキすぎて
ケツのデルドがずり落ち
てるぞ…もっとしっかり
ケツ穴絞めろ！」

「まあ全身くまなく
感度調整済なんで
全身オマンコみたいな
もんですけどね♪」

あ～聞いちゃいないね
ホントだらしない
雌豚ですいません
朧様」

「あ～落ちちゃった
これは今日朧様が帰った後でお仕置き決定だね…」

「おほおお、お二人の兜合わせ
サンドきたあああ♥
金玉もいいけどやっぱり
亀頭が一番気持ちいい～
おほおお
ぎぼぢよすぎます～♥」

「まあお仕置きの前に
私たちも一発抜かせてもらおうかな…
いくぞ、さくら」

「OKムッちゃん」

「二人で亀頭を
グリグリせめてあげるから
朧様の前で盛大に
糞をぶちまけながら
イッて見せろ
ババア！」

「チンコ気持ちいい
チンコ♥チンコ♥チンコ～
やっぱりチンコがNO1♥♥」

「おおお糞が出ます
糞がでる～ウンコ♥ウンコ♥
ウンコ～♥極太ウンコでりゅう～
雌豚アサギは糞をぶちまけながら
派手にイカせていただきます～★」

「おほおおおお★でりゅうう
糞とオシッコ漏らしながら
ザーメン大放出～
おへえええ★オッパイザーメンも
でりゅううあへえええ♪
糞チンポアクメぎぼぢいいいいい♥
射乳アグメぎぼぢいいいのおおお♥」

ウンコ♥チンポ♥オッパイ
全部ぎぼぢいいいいいいい♥♥
いっぐううううん♥

「アハハ面白かったわよアサギ
それじゃあ　さくら、紫たまに様子を見にくるから
後よろしくね」

「ハイ！朧様お任せください」

ぶりぶりぶり

いぐ〜

「おほおお
射精のたびにウンコが〜
ウンコがとまらな〜い！
ウンコ無理無理
いっぱいでりゅう
私うんこ製造機に
なってる〜♥
ウンコブリブリ〜」

いぐ〜

「おおおイグ〜また
いぐううう
このオナホ便器
すんごいのおおお♥」

ぶりぶりぶりぶり

おほおおチンポにイボイボ
からみつく〜
あへえええチンポ
ムケて気持ちいい〜♥」

「アハハ気にいたかアサギ
その便器に接続してると
ウンコをイクたびに
無限にひり出せる
ようになってるんだ
仕組みはよく知らねー
けどなW」

ブリブリ

「おほおお
てことは無限にウンコでイケ
るんですね？
最高この便器最高です〜♥♥」

ブリ〜

ウンコ♥

ぶりゅ〜

「なあさくらよ…
これは本当に罰になってなくはないか？
喜んでるじ…むしろ褒美にじゃあ…」

「まあしょうがないよムっちゃん
もうコイツ痛いのも気持ちいいのも
どっちもおんなじになちゃってるじ…」

ウンコ♥

ウンコ♥

「あへえええ気持ちいい
この便器だいしゅき〜結婚しちゃう
私もうこの便器と結婚しちゃう
この便器さん私のお嫁さんに
なって〜♥♥」

いぐうううう♥

「あえてするなら何もしない
ことが罰なんだろうが
それだと面白みがないしな…」

「そうそう…それに
このマゾ完全放置しても
勝手に射精するだろうし…
射精禁止にしたら
それこそあの無限精子製造
金玉は破裂しちゃうだろうしね…」

「アハハハマジうける
便器に求婚はじめちゃったよ
このオバさん
まあ楽しめたからいいんじゃないの？」

「妊婦のくせに
ウンコ絶頂しながら
便器に求婚とは…
もはや雌豚ですらないな
これはもうお似合いの
オナホにでも
改造すべきか…」

「おいさくら
何かはじまったぞ…」

「お？いいね〜朧様の許可が
おりたらそうしようよ〜楽しみ〜♪」

「コレこうして
巨大金玉がソファー
みたいにフカフカで
座り心地もなかなか
いいんです…」

「ほらこうれこうして
動くたびにザーメン吹き出す
んでするよ面白いでしょ？」

「あらそれはいいわね♪
それにしてもまたザーメンの
量が増えたんじゃない？」

「どうです？朧様
先日やっと完成したんですよ
このオナホ」

2ケ月後

「さくら…説明もいいから
そろそろ私にも使わせて
くれ、私はまだ使うたこと
ないんだそのオナホ…」

「ふふふ
じかじ貴方達から
アサギをオナホにするって
アイデアを聞いた時は
びっくりしたけど
これは見事ね♥」

「ダメダメ～まだ説明の
途中だし♪それに
次に試してもらうのは朧
様でしょ？」

「え～へ～
まあでも
こうやって使う度に
ウンコするのは面白いけど
後始末が面倒ですかね…
まあコイツに食わして
始末してるんですけど…」

「そんな～
早くしてくれ～」

「あらそういう機能もあるの？
それは便利ねそれじゃあ催して
きたしさつそくオシッコでも
飲んでもらおうかしら」

「お飲みアサギ！」

オナホBBA

「あべえええ
朧様のオシッコ
ありがとうございます～
あべべえええ朧様のオシッコ～♥
（ゴキュゴキュ）」

「ホント嬉しそうに飲むのね
これからのオナホ人生がんばってね
ア・サ・ギ♪」

「ハイ朧様、オナホはこれからもがんばります～」

「アハハハハいい返事ね　最高よアサギ♥これからももっともっと楽しませてね♪」

あとがき

初めての人は初めまして…久しぶりの人はお久しぶりです、生猫亭です。

本書は夏コミ用に作ってた本だったのですが、なんだかんだで冬までかかって
しまいました…しかも締切ギリギリ…。」

もっとやる気を出さないとまずいと思うのですが…この本もフルカラーで４４ｐ
ほどを目指して作ってたのですが結局３６ｐに…(一応実は現行はオールカラーで
描いてます…。今印刷でどのような結果になるのか実は震えていいるところです。
印刷が濃すぎたらどうしようって(;´д`)

加筆や修正をしてだすと思うのですがいまから突っ込むとコミケに間に合わないし
予算的にもどうかってところなのでカラー版はＤＬ専売にするつもりです。
内容的にほとんど同じ本を買って頂くのは気がひけるのですが、もし興味があれば
チェックして下さるとありがたいです。

まあ出るとしても早くて１月末～２月頃だとおもいます。
(加筆内容によってはもう少し先？正直どうなるか不透明ですがせっかく
全部カラーで作ってるのでなんらかの形でだしたいです。
出すなら最低でも数ページの追加をするつもりです。)

本当はこの本もださずに最初からカラーでＤＬ用にしようかと悩んだのですが
夏冬連続で本がでないというのもかなりアレかと思いだすことにしました。

それでは今回はこの辺で失礼します。

この度はこのような本をお手に取って頂きありがとうございました。

奥付
誌　名：フタナリ対魔忍　雌豚妊娠調教
発　行：生猫亭
著　者：CHAN SHIN HAN
発行日：2017.12.31
連絡先：necoconecosan@moon.sannet.ne.jp
印　刷：金沢印刷